

VOL. 23  
 2022年1月発行  
 秋田市少年指導センター  
 TEL884-3869



## 子供・若者育成支援推進強調月間(11月)キャンペーンを実施しました!

内閣府は、子供・若者育成支援推進大綱に基づく取組を国民運動として総合的に展開する契機とするために、毎年11月を「子供・若者育成支援推進強調月間」として設定しています。当センターでは、「11月は子ども・若者育成支援推進強調月間」と入ったポケットティッシュを作製し、各地区少年指導委員会のあいさつ運動の際に配布するなどして、その周知を図っています。


## 11月は「子供・若者育成支援推進強調月間」です

ほとんどできる「居場所」がどこにもない—  
 そんな子供・若者が増えています。  
 未来を担う子供・若者たちのために、何ができるか  
 考え、行動に移してみませんか?

「どこにも居場所がない」とする子供・若者の割合



(↑上のバナーを少年指導センターHPに掲載しています)

 子供・若者育成支援、大綱に関するHPはこちら⇒<https://www8.cao.go.jp/youth/ikusei.htm>  
 (←こちらのQRコードからもご覧になれます)

おつかれ様でした!

## 各地区少年指導委員会からの報告

- 秋晴れの朝、キャンペーンにてポケットティッシュを配布し声かけを行いました。生徒会の生徒20名程と校長先生、教頭先生、生徒指導主事の先生にも協力していただきました。体育会系の元気な声が爽やかでした。(南部地区 秋田南高等学校中等部正門前)
- 大曲方面、秋田方面の電車時間に合わせて活動しました。昨年と違い新型コロナウイルスの感染者が落ち着いている状況だったので、高校生の皆さんはティッシュを受け取ってくれました。(河辺地区 JR和田駅改札口前)
- 中学校の指導が行き届いているのか、中学生の方からあいさつしてくれるので、たいへん気持ちの良いあいさつ運動でした。(中央第二地区 泉中学校正門前)



## 年末特別巡回を行いました! 巡回指導部会

令和3年12月6日(月)午後6時30分から、フォンテ秋田に集合し、年末特別巡回を行いました。「フォンテ6階の階段で学生と見受けられる2人の男子が座ってスマホを操作していたので、声をかけたところ少しびっくりした様子でしたが、特に問題はありませんでした。オーパでは、プリクラを撮っている女子高生らしき生徒が10数名おりましたが、特に問題はありません」との報告をいただいています。



巡回指導部会の皆さん



## 令和3年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業 (中央研修大会)」に参加しました！



令和3年11月29・30日、令和3年度「子供・若者育成支援のための地域連携推進事業（中央研修大会）」がオンラインで行われました。

主催者挨拶の後、内閣府政策統括官(政策調整担当)付青少年企画担当参事官 御厩裕司氏から、「子供・若者育成支援推進大綱等について」の説明があり、「子供は環境に影響を受ける。中には、環境を変えていけるたくましい子もいるが、たいていは人間形成に影響が出る。そのため、安心できる「居場所」をしっかりと確保して、その質を高めていくことが大切である」という話がありました。

その後、大綱に関するテーマについて6名の講師の方々のご講義くださいました。その中のお一方のお話を紹介いたします。

### 「子供・若者のWell-being を高めるために」

公益財団法人Well-being for Planet Earth 代表理事 石川 善樹 氏

「Well-being」とは、直訳すると「良い状態」を意味し、今の子どもたちが今後生きる時代のポスト「SDGs」となる指標として注目されています。また、一時的な幸せの感情を意味する“Happiness”ではなく、身体的・精神的・社会的に良好な状態を意味する“Well-being”の概念が国際的に関心を集め、関連する調査も国内外で多く行われています。例えば、ユニセフによる国際調査によると、日本の子どもの「身体的健康」は38カ国中1位なのに対し、「精神的幸福度」は37位となっています。日本の子ども・若者の精神的・社会的Well-beingの低さがうかがえます。

Well-beingには、主観的Well-being（生活満足度）と客観的Well-being（GDP/人）があり、主観的Well-beingが悪化すると政治・社会が混乱すると言われていています。日本は戦後、客観的Well-beingは改善されましたが、主観的Well-beingは悪化も改善もしませんでした。

主観的Well-beingの構造には3つあり、「経済発展」「民主化」「社会的寛容」が社会的条件となっています。日本は、その中で特に「社会的寛容」（女性の権利、LGBTQ+、移民、年齢、能力など）が低いとされています。では、どうしたら高まるのか。それは、「居心地の良いところ（居場所）がたくさんあること」です。居場所とは、自分の部屋、家庭、インターネット空間、地域、職場、学校などですが、居場所は一つでは不十分で、例えば、子どもは一つの居場所の居心地が良すぎると、そうでない場所を悪く感じます。そのため、何れも安心できる居場所があることが良い状態ということです。

ある研究では、男女の「料理頻度の男女差が小さいほど、主観的Well-being（幸福度）が高い」との結果が出ています。男性が料理する頻度が高くなると社会的寛容度が高くなる、ということです。誰かが困っているときに助けてくれる人がいる社会、みんな違ってみんないいという社会が求められています。

【感想】社会的寛容の高い、温かい社会となっていくよう努力が必要だと感じました。

(少年指導センター事務局)



### わかくさ相談電話より

わかくさ相談電話では、少年に関する悩みや心配事の相談に応じます。冬は気分が落ち込みやすい時期だといわれています。友達、学校、勉強、進路、家族のことなど、ひとりで悩まず相談してみてもいいでしょうか。来所も可能です。ぜひお気軽にご利用ください。

**わかくさ相談電話  
018-884-3868**



### お知らせ



2月1日(火) 代表者会議  
(午後2時 アルヴェ洋室C)

1月16日(日)は「冬の青少年健全育成運動」の重点目標のひとつ、「家庭の教育力向上」のための「あきた家族ふれあいサンサンデー」となっています。家族全員で時間をかけて食事をとりながら、家族の絆を深めてみてはいかがでしょうか。

